



ふくしま 12 市町村移住支援センター
センター長 藤沢 烈^{れつ} さん

移住を成功させるために

もともと都市部に住んでいた人は、これまで地域との付き合いが少なかったため、移住後に地域の一員としてする必要があること(草刈り・お祭り参加・ゴミ出しなど)が分からずに、関係性が悪くなってしまう問題が全国的に見受けられています。移住者の皆さんはそのような地方の暗黙のルールに慣れておらず、地元住民から「協調性がない」などと言われることがあります。知識や経験がないた



先輩移住者の協力と 地元住民の理解が 移住の力ギになる

めにはできないだけのことがほとんどです。そのため地元住民がそういった移住者ならではの事情を理解し、地域のルールなどを伝えることで大半の問題は解決することが出来ます。

また、移住者の不安や考えがよくわかるのは先輩移住者のため、特に先輩移住者の方には住民と移住者をつなぐ橋渡しになってもらうことが移住を成功させる力ギになってきます。

定住者が増えるには

定住者が増えるには、移住した後の暮らしの中心となる「仕事」の充実が重要です。しかし、移住して起業したり何か事業を始めた後に「成功して事業を継続できる人」と「うまくいかず継続できない人」に分かれてしまうことが全国的に散見されており、その2者には大きな違いがあります。

それは「事業を始める前から地域住民と繋がりがあるかどうか」

です。町民の皆さんには、移住者として新しい取り組みをしようとする人や事業を起こそうとする人に対して、好奇心や関心をもって積極的に関わっていただき、移住後もサポートして欲しいと思います。

情報発信が移住促進へ

移住者の立場になって考えると川俣町の魅力は、自然豊かで食べ物美味しく人が温かいこと、福島市に近いため暮らしの便利さもあることが挙げられます。車で30分程度で新幹線のある駅に行けるのは全国的に見ても魅力的に映ると思います。そんな魅力を川俣町に住んでいる皆さんが情報発信することで、より多くの移住を考えている人に川俣町のことを知っていただき、町を支えていきたいと思うてもらえる移住者を増やしていくことがこれからの川俣町の未来を創っていくことに繋がります。

移住者も 地元住民も 誰もが 暮らしやすい町へ



吉村さんご夫婦は、移住後オー
トキャンプ場の開設・管理や町内
で塾の運営をしてきました。妻の
弘子さんは公民館の主事も務めて
おり、山木屋地区に欠かせない存
在となっています。移住者が私た
ちも気付かなかった町の魅力を再
発見、それを町外へ発信したり、
今まで地域になかった盛り上がり
を創出したりとその存在は地域を
より活性化してくれています。

一方で移住者の受け入れについ
ては、まだまだ多くの課題が残っ
ており、今すぐに解決できない課
題も多くあります。しかし、「空き
家の利活用」や「交通手段の改善」
といった私たちが抱える問題は、
「移住」だけではなく、今この町に
住む私たちの暮らしの問題でもあ
りました。「移住」について考えた
とき、それはその後の「定住」や、
今この町に住んでいる私たちの「か
わまた暮らし」にも繋がっている
のです。移住者も地元住民も誰も
が暮らしやすい町を目指すことが
明るい町の未来を創っていくので
す。